**潜伏キリシタンのカトリックへの復帰**

1865 年、長崎の大浦天主堂で潜伏キリシタンが宣教師に信仰を告白した「信徒発見」とよばれる出来事が起こりました。この出来事は、他の地域の潜伏キリシタンもひそかに大浦天主堂の宣教師と接触するきっかけとなりました。上五島の潜伏キリシタンの指導者たちは、長く隠し続けてきた自らの信仰を告白するとともに、宣教師の上五島派遣を要請しました。宣教師の到来により、頭ヶ島をはじめとする各地の潜伏キリシタンがカトリックへと復帰しました。

1867 年、外海地域で「水方」という洗礼を行う役を務めた人物を父に持つ、上五島地域の潜伏キリシタンの頭目であったドミンゴ森松次郎が頭ヶ島へと移住しました。松次郎は島内の白浜に居を構えて仮の聖堂とした。大浦天主堂から訪れた宣教師はこの場所で迎えられました。1887 年に彼の家の近くに建てられた木造教会堂は、1914 年まで使用されました。

**CAPTIONS & CREDIT**

・潜伏キリシタンの指導者 ドミンゴ森松次郎居宅兼伝道所
・現在の頭ヶ島天主堂
・白浜集落の海岸近くにあるカトリックに復帰した人々の墓地